

ご成人おめでとう 竜丘地区成人式 盛大に開催



☆…今年一番の冷え込みを記録した一月十一日に、竜丘地区成人式が八十三名の新成人を迎え、華々しく開催されました。………☆
 ☆…平成生まれが、初めての成人を迎える節目の成人式でもあり………☆
 ☆…りました。



発行所
 飯田市竜丘公民館
 編集人
 竜丘公民館広報委員会
 印刷所
 龍共印刷株式会社
 飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,802人
 男子 3,321人
 女子 3,481人
 世帯数 2,244戸
 (21年2月末現在)

記念式典では、御来賓の方々から祝辞を頂き、新成人の方々は身の引きしまる思いで一言一言を受けとめていただきました。成人代表の北澤宣房さんのお礼の言葉では、「リーマンブラザーズ・サブプライムローンなどの影響で不況の中で今後就職活動をしていく訳ですが、前向きに頑張っていきます。また、今回の成人式にあたって、準備の段階から御尽力を頂いた皆様に、感謝します。」と語られました。

第二部は、実行委員の五名の方々を中心に企画、構成され、行われました。最初に、小さい頃の 슬라이ドが上映されました。会場から「誰」「誰」と笑い声が生まれました。また、小学生時の作文も三通ほど朗読されました。「ト



ニックンチャンプ」の話では、会場がワッとわき上がり、その盛り上がり、ビデオカメラが放映されました。これは実行委員の皆さんが、現在恩師が赴任されている学校を飛び回っ

多くの新成人、保護者の方々、来賓の皆さんが集まり、成人式は盛大に行われました。自分は、実行委員を引き受けた当初は責任の重さに不安でしたが、終わってみると充実感でいっぱいになり、多くの方に祝福され、良き仲間たちと成人式を迎えられたことを大変うれしく思っていました。

成人式を迎え、社会的に「大人」となり、期待と不安でいっぱいです。この春、飯田女子短期を卒業し、小さい頃からこの夢だった幼稚園の先生になり、短大の実習では竜丘保育園にお世話になり、竜丘の小さな後輩たちの明るく素敵なキラキラした笑顔に元気がわいてきました。

味での節目だと思えます。確かに権利は与えられますが、同時に責任と義務も負わなければなりません。自分は今、通信課程で理・

人生でも大切になってくる話されました。今まで経験してきた事一つ一つが、これからの人生の糧となっていくので、自分たちが積み重ねてきた事を大切にしたいと、メールを送られました。

味での節目だと思えます。確かに権利は与えられますが、同時に責任と義務も負わなければなりません。自分は今、通信課程で理・

人生でも大切になってくる話されました。今まで経験してきた事一つ一つが、これからの人生の糧となっていくので、自分たちが積み重ねてきた事を大切にしたいと、メールを送られました。

深い一日になりました。実行委員で企画した第二部に感謝して、これからもしっかり生きていきたいです。

たごちそうをいただき、長野野原煙火会の方々の豪華な花火に祝福していただき、きれいな振り袖を着て、小学校の友だちと再会し、とても楽しく思い出しています。

また、責任は仕事だけではなく、私生活でも負わなければなりません。善悪の判断が的確に出来る社会人になりたいです。

最後に、長野野原煙火会の方々の豪華な花火に祝福していただき、きれいな振り袖を着て、小学校の友だちと再会し、とても楽しく思い出しています。

「春がきた、春がきた、どこにきた」という歌を口ずさみたい時期になったが、この記事を書いている一ヶ月前は、春を飛び越して、初夏近くまで暖かくなった。これはこれで、過ごしやすかったが、その月として観測史上最高気温の更新を聞く、やはり地球温暖化の影響かと思わずにはいられない。

環境にやさしい生活を!

マイバッグに関する調査



文化祭での環境委員会調査展示

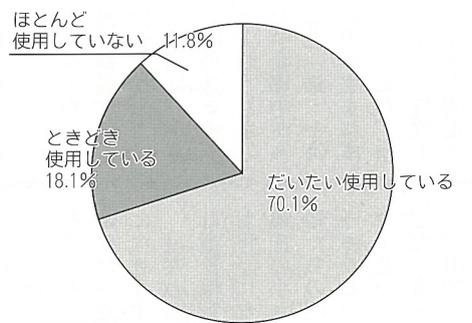
最近、地球温暖化防止や環境型社会形成のため、レジ袋の無料配布を中止し、有料化する活動が全国的にも広がってきています。飯田・下伊那地域でも、二月一日から「レジ袋削減取組の店」として登録した店舗で、レジ袋の有料化の取り組みが始まりました。

レジ袋は丈夫で使いやすいことから私たちの生活に定着していますが、その多くはごみとして廃棄されるなど、環境に負荷をかけていることから、その削減が求められています。レジ袋の使用を減らすことは石油資源の使用量やゴミ処理費用の削減につながります。竜丘地域づくり委員会の環境委員会では、スローガンを「できる

ことから始めよう、みんなで作るきれいな竜丘」として、今年度の活動の一つにマイバッグの利用促進と意識啓発を掲げて、マイバッグに関する二つの調査を行いました。

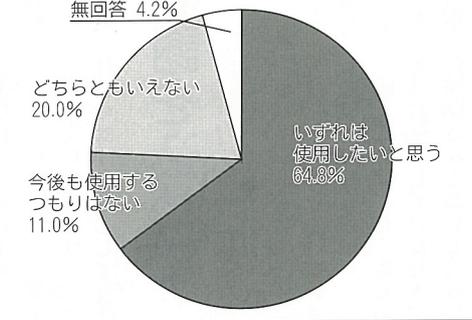
質問

スーパーに買い物に行くときはマイバッグを使用していますか? (全体)



質問

今後マイバッグを使用してみたいと思いますか? (ほとんど使用していないと回答した145名を対象)



「調査」です。六月八日と十月五日に、地域にある大型店、あいばん飯田とキラヤ竜丘店で、二回にわたりマイバッグ持参の来店者を調査しました。その結果、六割弱がマイバッグを持参しているという状況が分かりました。次に「マイバッグに関する意識調査」を、八月から九月にかけて、竜丘地区内の組合に加入している世帯千六百四十七世帯に実施しました。回収にあたっては地域の皆さんのご協力をいただき、千二百三十世帯が

「調査」は、六月八日と十月五日に、地域にある大型店、あいばん飯田とキラヤ竜丘店で、二回にわたりマイバッグ持参の来店者を調査しました。その結果、六割弱がマイバッグを持参しているという状況が分かりました。次に「マイバッグに関する意識調査」を、八月から九月にかけて、竜丘地区内の組合に加入している世帯千六百四十七世帯に実施しました。回収にあたっては地域の皆さんのご協力をいただき、千二百三十世帯が

ニューイヤークンサート

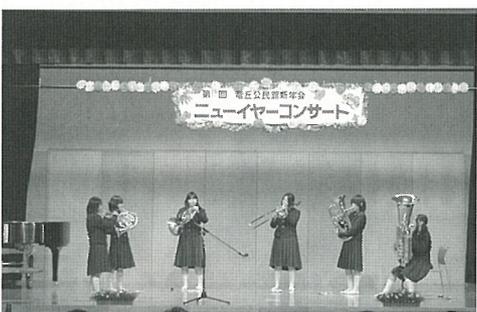
地域が育む音楽祭

一月二十四日に竜丘公民館でニューイヤークンサートが行われました。十四回目を迎えた今年も、十七グループが参加し、子どもからお年寄りまで約三百人が集まり盛大に開催されました。

公民館長のあいさつの後、Gストリングス琴姫の「笑点テーマ曲」で賑やかに幕を開けました。初出演の飯田カネット合唱団は、今年小学生が入団し四歳から七十歳までの幅広い合唱団となりました。楽



KMKPS (上川路ママ&キッズパーカッションズ)



緑中吹奏楽部

四年生が「飛べペガサス」などを、五年生が「つばさを抱いて」、六年生有志が「COSMOS」などを合唱しました。緑ヶ丘中学校

では、一年七組が「旅立ちの時」を合唱し、吹奏楽部がフルート三重奏、金管の六重奏と八重奏、それぞれ活躍に、演奏が終わる度に大きな拍手に会場は包まれていました。

また、初ステージとなる中学二年生の友人三人で結成したSKYによる「ハナミズキ」などの合唱がありました。緊張した面持ちでしたが、澄んだ歌声に会場は聞き入っていました。竜丘小学校の発表では、

話そう子育て・語ろう教育

「飯田子どもを考える市民のつどい」

第三回、飯田市子どもを考える市民のつどいが、二月七日、県公民館で開催されました。中学生、高校生から、七十歳代と幅広い年齢層の参加者百名あまりを集め、地域の子どもの将来を、さまざまな立場の方々が意見交換を行いました。

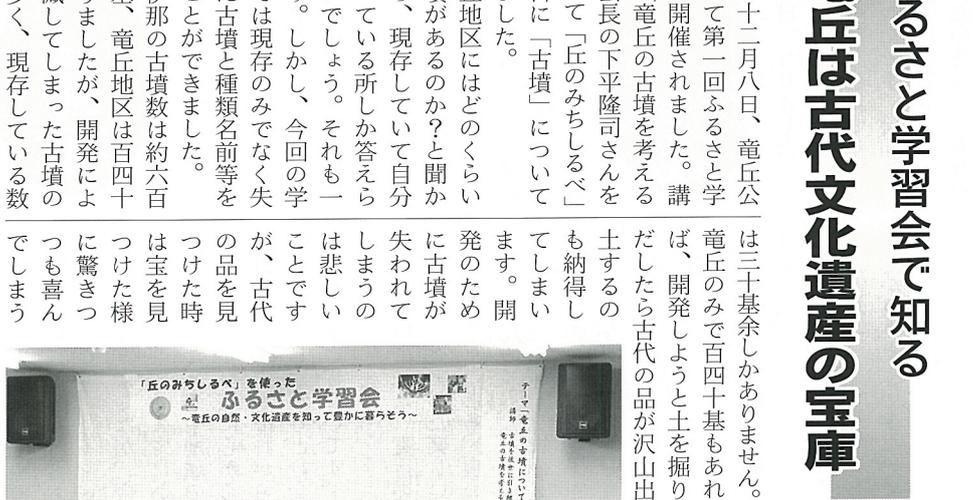
主催者を代表し、木下陸奥公民館長が地域での子どもとのふれあいや、どう見守っていったらいいのかなど話をされ、市民のつどいが始まりました。

第一部では、飯田市教育委員の永井祐子さんが、「わが家の結いタイム」啓発事業について、緑ヶ丘中学校教諭、名子晃さんが

「親子で過ごすステキな時間」をテーマに、参加者に提案され、つづいて行われた分科会へと入っていきました。

分科会では、竜丘の熊谷伊久夫さんが、「種まきから収穫までの米作り」と題し、竜丘・時又保育園でのあぐりの田んぼの活動を、四年前の始まりから、今までの苦労話をし、子どもたちとの接し方、子どもが興味を持つ事などを具体的に、わかりやすく話をされました。その後の討議では、あぐりの田んぼに参加した親子から、一緒の目的で子どもとふれあえる場となった。保育園で学んだ事が、小学

ふるさと学習会で知る 竜丘は古代文化遺産の宝庫



去る十二月八日、竜丘公民館にて第一回ふるさと学習会が開催されました。講師に「竜丘の古墳を考える会」会長の下平隆司さんをむかえて「丘のみちしるべ」を資料に「古墳」について学びました。

竜丘地区にはどのくらい古墳があるのか?と聞かれたら、現存している自分の知っている所しか答えられないでしょう。それも一桁だけ。しかし、今回の学習会では現存のみでなく失われた古墳と種類名前等を知ることができました。

下伊那の古墳数は約六百八十基、竜丘地区は百四十基ありましたが、開発により削減してしまった古墳の数が多く、現存している数

は三十基余しかありません。竜丘のみで百四十基もあれば、開発しようと土を掘りだしたら古代の品が沢山出土するのにも納得してしまいます。開発のため古墳が失われてしまうのは悲しいことです。古墳の品を見つけた時は宝を見つけた様に驚きつつも喜んでしまおう

ののではないのでしょうか。開発が進む中、あえて古墳を掘り返さないようにそのままの状態を保存する動きも見られている様ですが、郷土の事については竜丘地区住民が一人一人の意見を持って話し合える場があっても良いのではないかと感じた学習会でした。



市民運動会運営に参加して体験発表

たまたか意見が出されました。飯田市民の多くの方が地域の子どもの事を真剣に考え、意見交換の場となっていました。